

平成30年度 全国学力・学習状況調査結果及び分析・対策（松江市立宍道中学校）

平成30年9月25日

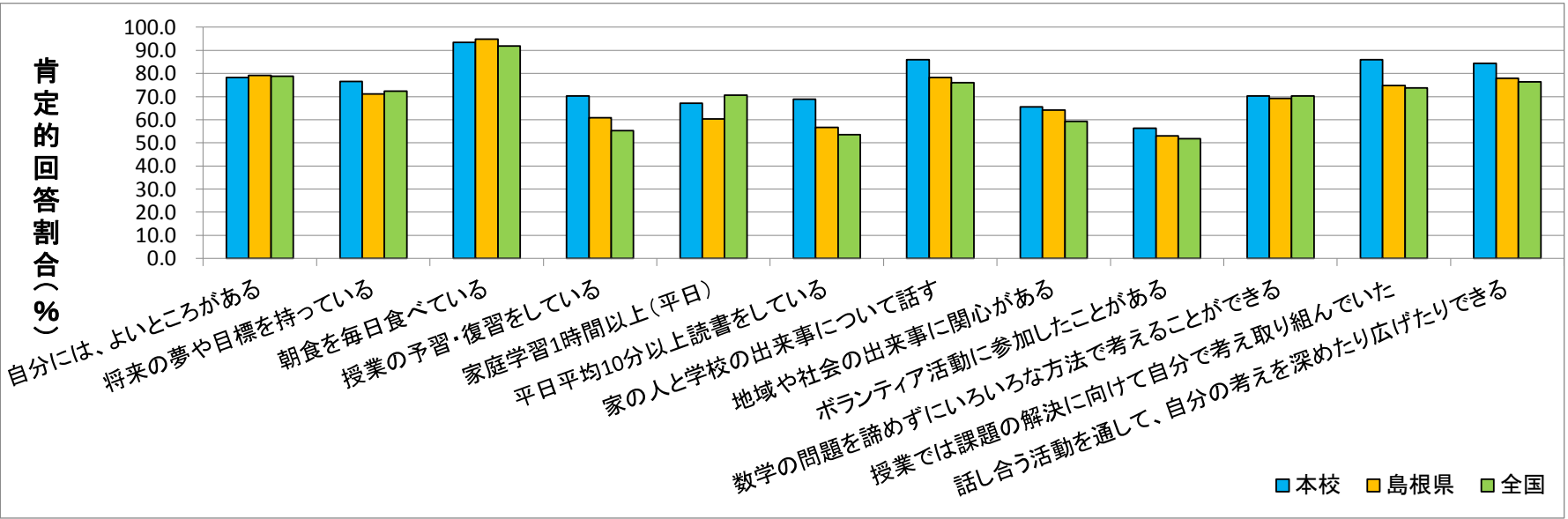
(1) 学力調査結果から見られた傾向

		成果と課題(○：成果，●：課題)	対 策
国語	A (基礎)	○全体的に県・全国平均を下回っているが、全員が32問中12問以上正解することができた。 ●短答の設問（何かを説明するという設問）について、正答率が低く、無解答率が高い傾向にある。 ●慣用句等言葉の意味が分からず間違えている生徒が多い。	・漢字や慣用句，故事成語等を取り入れた作文を書かせ，日常生活で使える語彙にする。 ・授業の中で，何かの説明を話したり書いたりする場面を取り入れる。
	B (活用)	○全体的に県・全国平均を下回っているが，あらすじを書くという設問では，正答率が上回っており，無回答率も低い。 ●記述式の設問3問中，あらすじを書く以外の2問で無回答率が高い。 ●長文を読んで理解することが困難な生徒が多くみられる。	・授業で体験したことは，少しずつ身につけているので，さまざまな「書く」活動を体験させる授業づくりを心がける。
数学	A (基礎)	○全体的に県・全国平均値を下回っているが，図形の基礎知識の問題では正答率が高いところがある。 ○数学に関する関心度が全国，県平均を上回っている。 ●数と式についての基本計算や，用語の意味理解の得点率が低い。 ●統計的な見方や考え方の力に課題が見られる。	・基礎，基本の定着（前時の復習，小テスト，ペア学習，個別指導）を図る。 ・小学校の学習の定着状況に十分配慮しながら，数直線を利用したり，操作活動を有効に使い，生徒の理解を促すような授業づくりをする。
	B (活用)	○全体的に県・全国平均値を下回っているが，図形の証明問題の正答率が高い。 ●数量，確率の領域における正答率は低い。 ●説明問題の無解答率が全国平均より高く，数学的な表現を用いて説明することが苦手である。	・記述問題が苦手な生徒が多いので，普段の授業において自分の考えをもつことや，それをペアやグループで説明できるような場面を多く取り入れながら数理的に考察し，表現したりする能力が高められるようにする。
理科		○地学領域の正答率が高い。特に地震に関する問題において正答率が高い。 ●「活用」に比べ，「知識」を問う問題の正答率が低い。特に生物領域における知識に関する正答率が低い。	・知識を問う問題の正答率が低いので，専門用語をおさえるとともに，基礎的な問題の演習を繰り返して行う。 ・実験や観察の中で考えたり，話し合ったりする機会を増やして，科学的な思考力を高めさせるようにする。

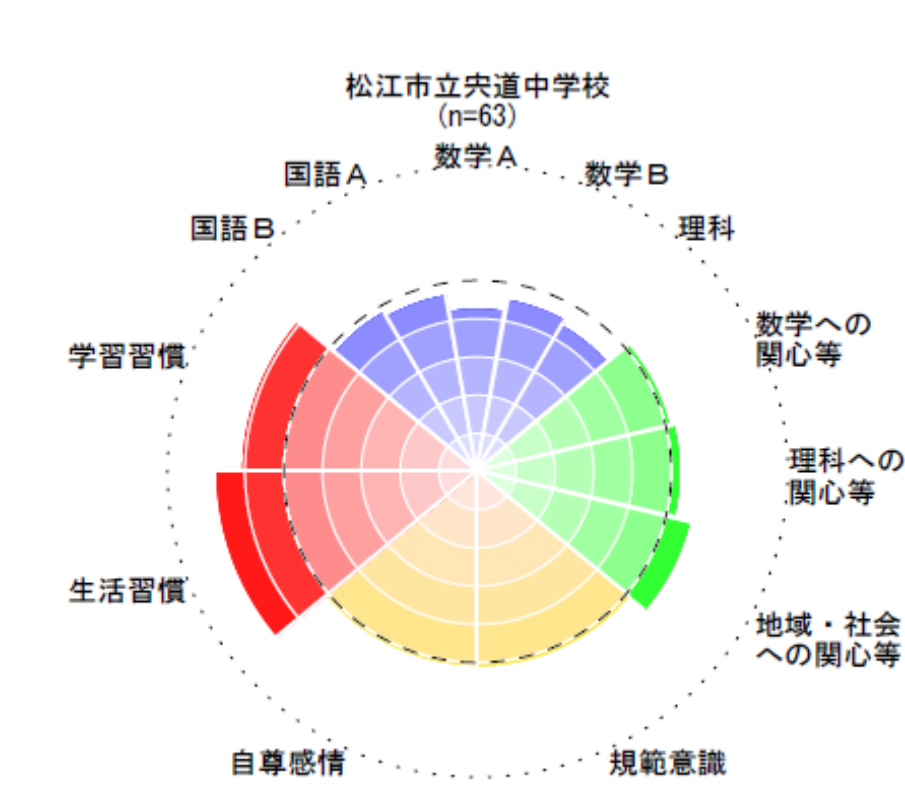
(2) 生活意識調査から見られた傾向

成果と課題(○：成果，●：課題)	対 策
○全体的に県・全国の平均値を上回っている。 ○授業では，自ら考えたり，話し合いで考えを深めたり広げたりできたと答えた生徒の割合が高い。 ●授業の予習・復習をしていると回答した生徒は多いが，家庭学習の時間と比較すると，その在り方について改善の余地があると考えられる。	・自ら考えたり，話し合いで考えを深めたりする授業をさらに増やし，授業改善に取り組む。 ・家庭学習の質を高めるため，テキストや課題プリントの進め方などについてのアドバイスをを行う。

(3) 意識調査（学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています）



(4) 学力調査及び生活意識調査から見られた傾向（破線は全国平均）



(5) その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・家庭学習やSNSの使用に関しては，学校では外部講師の講演や学活などで意識付けを図ったり，各家庭では親子で使用の制限や決まりを作るよう促したりするなど，PTAとの連携を継続・発展していくようにする。

【参考】

○平均正答率		(%)			
		本 校	松江市	島根県	全国
国語	A	74	76	76	76.1
	B	60	61	61	61.2
数学	A	59	65	64	66.1
	B	42	46	45	46.9
理科		62	65	66	66.1

受検者数 63 人
※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示しています。